



志木第九の会 第21回 定期演奏会

大木 惇夫 作詩 / 佐藤 眞 作曲

混声合唱のためのカンタータ 《土の歌》

ピアノ：矢内 直子

合唱：志木第九の会合唱団

指揮：三澤 洋史

G.フォーレ 作曲 《レクイエム》

ソプラノ：藤崎 美苗

オルガン：矢内 直子

バリトン：大森 いちえい

エレクトーン：長谷川 幹人

合唱：志木第九の会合唱団

指揮：三澤 洋史

2024年9月1日(日) 開場13:30 開演14:00

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ メインホール

入場料：2,000円（全席自由）

※ 出演者への花束、プレゼントのお預かりは致しませんのでご了承ください。

※ 未就学児の入場はお控えください。

◆入場券取り扱い

志木市民会館仮設会議室 / 宗岡公民館 / 秋ヶ瀬スポーツセンター
富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

◆お問い合わせ

志木第九の会 090(4474)2901 (担当:大村)

SNS：Facebook X(旧 Twitter) [志木第九の会]で検索



志木第九の会 第21回定期演奏会

志木第九の会は志木市市制施行20周年記念事業の一環として、ベートーヴェン「第九」を歌うために集まった合唱団の有志が母体となり、1991年9月創立された混声合唱団です。

定期演奏会では、三澤洋史音楽監督の指導のもと、「第九」はもとよりモーツァルト、ヴェルディ《レクイエム》、ハイドン《天地創造》《四季》、メンデルスゾーン《エリア》《聖パウロ》、ヘンデル《メサイア全曲》などの大曲に挑み、高田三郎《水のいのち》、佐藤真《土の歌》などの日本の混声合唱組曲にも取り組んできました。

また、志木市文化・コミュニティ事業のふれあい祭りやサマーコンサートにも参加し、地域に愛される合唱団をめざしています。

大木 惇夫 作詩 / 佐藤 真 作曲 混声合唱のためのカンタータ 《土の歌》

1962年の宮中歌会始の御題は「土」でした。これに因んで、日本ビクターは同社の専属作詞家・大木惇夫氏(おおきあつお 1895～1977)に作詞を依頼、そして当時まだ東京芸術大学専攻科に在学中だった佐藤真氏(さとうしん 1938～)に作曲を委嘱しました。

土は生命を生み出す根源であり、「土から生まれて土に還る」。だからこそ人類創世神話でも、土が重要な役割を果たすのです。しかし、この生命の基盤である土は人間同士の争いの中で、何度も汚されてきました。その究極が原爆投下であり、自身が被爆者でもある大木氏はその怒りを詩として表現しました。

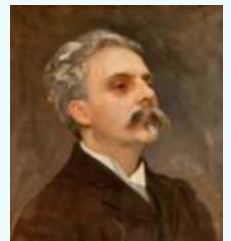
そしてそのすべてをへたうえで、最終曲「大地讃頌」では、母なる大地の美しさ、偉大さ、豊かさを讃えて、土への感謝を歌い上げるのです。

G.フォーレ作曲 《レクイエム》

フォーレ《レクイエム》は、1885年に父、87年に母と相次いで世を去ったことが作曲の動機となりました。テキストは基本的にはカトリックの典礼文から選んでいます。が、「怒りの日」をカットし、「楽園にて」を最後に配して至福に満ちた静けさの中で曲を締めくくるという独特の構成です。ここには父母に寄せるみずからの思いが反映しているでしょう。

初演は1888年1月マドレーヌ教会で、作曲者自身の指揮でした(ただこのときは「奉献唱」「リベラ・メ」が含まれず、この2曲を加えた全曲初演は1893年、同じくマドレーヌ教会)。そして1900年にフル・オーケストラ版に拡張され、これが今日もっともふつうに演奏されています。

優雅にして気品に満ちた《レクイエム》—— 今年にはフォーレ没後100年、あらためてぜひその魅力を味わっていただければと思います。



G.Fauré (1845～1924)

入場券取扱い

志木市民会館仮設会議室(マルイファミリー8F)
志木市宗岡公民館 志木市秋ヶ瀬スポーツセンター
富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

住 所: 富士見市大字鶴馬 1803-1
(ららぼーと富士見のすぐそば)
交 通: 志木、鶴瀬の各駅東口から東武バス ららぼーと富士見行き



志木駅東口



鶴瀬駅東口

駐車場は台数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



東武バス
① 鶴瀬駅東口
② 富士見市役所前(降車)
③ ららぼーと富士見
④ 富士見市役所前(乗車)